

輸血・細胞治療センター

1. 概要

輸血・細胞治療センターでは、年6回の輸血療法委員会の開催、年2回の輸血療法院内監査の実施を行い、院内の輸血療法が安全かつ適切に運用されるよう管理している。

2020年は、輸血療法実施規約および輸血療法同意書の改定を行った。またHBV、HCV、HIVの輸血後感染症検査に関する対応について日本輸血・細胞治療学会の方針に従い、輸血前検体保管が全例で必須となった。

2021年は、迅速フィブリノゲン測定機器の導入を行う。フィブリノゲン値はクリオプレシピレート投与のタイミングを決定するのに非常に重要である。今回の機器導入で報告時間が短縮されることにより、クリオプレシピレートの適正使用につながると考える。またI&A（輸血機能評価認定制度）更新のための準備を行う。

今後も院内の輸血療法が安全かつ適正に行われるよう管理していく。

（センター長 倉橋 信悟）

2.活動報告

（1）定期委員会

輸血療法委員会開催（2か月毎予定） *6回実施

（2）輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施 *2回実施

臨時 輸血療法院内監査実施 *1回実施

（3）センター業務実績

①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)	前年比
血液型	18,100	0.84
不規則抗体スクリーニング	12,752	0.83
交差適合試験	5,916	0.97

②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比
赤血球液(RBC)	11,695	0.96
新鮮凍結血漿(FFP)	4,204	1.07
濃厚血小板(PC)	19,600	0.92

③アルブミン（ALB）製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比
ALB 25% 50mL	2,104	1.16
ALB 5% 250mL	1,285	0.93

* ALB使用単位数：14,121単位

* ALB/RBC=1.04 管理料Ⅰ算定基準：2未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比
赤血球液(RBC)	0.42	4.16
新鮮凍結血漿(FFP)	0.46	0.15
濃厚血小板(PC)	0.25	0.90

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球(RBC)	61	44
新鮮凍結血漿(FFP)	86	22
濃厚血小板(PC)	86	39